

南海トラフ海底地震津波観測網「N-net」の沖合システム整備完了

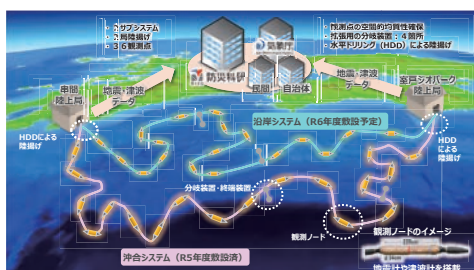
6月、文部科学省にて、地震津波火山ネットワークセンターの青井真センター長が南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)の沖合システム整備完了を報告する記者発表を行いました。

青井センター長は冒頭で、既存の陸域、火山、海域の七つの観測網を統合した「MOWLAS」に新たに加わる8番目の観測網がN-netであるという位置づけを説明しました。その上で、南海トラフ地震想定震源域の観測空白域である高知県沖から日向灘に整備する沖合システムと沿岸システムのうち、先行して沖合システムが7月1日より試験運用を開始することを発表しました。沿岸システムの整備完了は2024年度末を予定しており、地震動は最大20秒程度、津波は最大20分程度早く直接検知が見込まれる点をN-netに期待される効果として紹介しました。

別日に行われた防災科研の竇馨理事長を交えての記者懇談会では、「N-netが太平洋側での整備順の最後となった理由」についての質問が記者から寄せられました。竇理事長は、阪神・淡路大震災を契機に陸域の基盤観測網が、東日本大震災を契機に海域の基盤観測網が整備されるなど、災害後の対策が中心となってきた経緯を説明し、N-netは今後発生が予想される南海トラフ地震への先手としての備えであることを強調しました。



地震津波火山ネットワークセンター 青井真センター長



南海トラフ海底地震津波観測網 (N-net) イメージ

令和6年度東北雪氷賞・学術奨励賞を受賞しました

【受賞課題】着雪の発生メカニズムおよび災害対策技術に関する研究

雪氷防災研究部門の佐藤研吾主任研究員が令和6年度東北雪氷賞・学術奨励賞を受賞しました。佐藤主任研究員は、効率的な着雪実験手法を確立するために、湿雪作成装置の開発や湿雪降雪の自動化に成功するなど、着雪に関する多様な研究活動を通じ、雪氷研究の進展に大きく貢献してきたことから、受賞者に選考されました。



佐藤研吾主任研究員

2024年度日本地震学会技術開発賞を受賞しました

【受賞対象功績名】大型岩石摩擦試験機の開発と地震断層力学への貢献

地震津波防災研究部門の福山英一招へい研究員、山下太主任研究員、大久保威馬契約研究員、溝口一生客員研究員、川方裕則客員研究員、前田純伶客員研究員が、徐世慶氏(南方科技大学)とともに2024年度日本地震学会技術開発賞を受賞しました。本件は、これまで防災科研が大型岩石摩擦試験機を用いて行ってきた一連の実験研究の成果が評価され受賞に至ったものです。



大型岩石摩擦試験機

令和6年度 雪氷防災研究センター 子ども向け研究所公開 科学探究塾 入門編『寒いけど、楽しい！雪や氷の秘密を探ろう！』

■6月22日、長岡地域理科教育センターとのコラボ企画で、子ども向け研究所公開を行い、小学3年生～中学2年生の子どもたちと保護者の合計32名にご参加いただきました。

イベントでは雪の実験や寒さ体験を通じて、雪や氷の性質について学び、雪の楽しみや雪の災害から身を守る方法について考えました。



氷点下でも凍らない水とは
(低温室での実験)



雪崩とはどういうものか
(雪崩の模型実験)

■6月9日、マルチハザードリスク評価研究部門の内山庄一郎主任専門研究員が、防衛省陸上自衛隊教育訓練研究本部より、災害対応のためのドローン活用教育の推進について尽力したとして、本部長廣恵次郎陸将より感謝状をいただきました。

■「情報処理システム、プログラム及び方法」「構造物」の特許権を取得しました。
特許権の概要はホームページをご覧ください。

防災科研 特許

検索



■6月28日、自然災害のハザードリスク評価に関する情報や観測データの利活用と社会実装、地域の防災リテラシーの向上などについての課題に取り組む窓口・拠点として、香川大学内に防災科研サテライトオフィスが設置されました。これにより、連携・協力を有効かつ円滑に進め、さらなる防災科学技術の振興、四国地域の安全・安心への貢献および人材育成に寄与することを目指します。



開所式での藤原広行研究主監あいさつ

■7月2日～31日、倉敷市立真備図書館において、防災パネル展「西日本豪雨災害から6年」を開催しました。会場には防災・災害に関する資料と研究者が制作した西日本豪雨災害の概要説明、集中豪雨の発生メカニズムパネルを展示し、6,582名の方にご覧いただきました。防災科研 自然災害情報室では、過去の災害を振り返り、防災基礎力を向上する機会として、防災パネル展を国内各地の連携機関と協力して実施しています。



展示会場の様子(撮影：倉敷市立真備図書館)

■8月7日、8日、28の府省庁などが連携し、さまざまなプログラムを実施する「子ども霞が関見学デー」が開催されました。防災科研は、文部科学省の地震火山防災研究課の「来て見て触って！地震・火山の体験・展示コーナー」ブースへの出展協力を行い、展示やVR体験を通して来場者に、地震や火山について理解を深めていただきました。



火山展示(阿蘇山ジオラマ、火山灰、硫黄島火山弾)の様子

■「2024年度 夏休み『ふるリポ!』小学生親子サポーター」を開催しました。夏休み恒例となった企画に、今年も約100名の小学生サポーターにご参加いただきました。各地から届いたさまざまな気象レポートや気温観測データは、防災研究に活用いたします。参加者からは日々の天気や防災に関心を持つようになったとの声を多くいただきました。



特別企画(手作り雨量計、温度・湿度計、風向風速計コーナー)の様子